



「補聴器」購入への補助制度を求める 1567筆の署名と要望書を提出



1月12日、根室市社会保険推進協議会は、根室市に対して「難聴者の補聴器購入に係わる負担軽減を求める」署名1567筆と要望書を提出しました。

高齢化によって補聴器を必要としている方が増えていますが、日本では国の支援制度が限定的であり、公的制度が充実している海外に比べて高額な補聴器の普及が進んでいない現状にあります。

こうした中、全国では、補聴器の購入のため独自の助成制度を設けている自治体が増えています。

今回の署名は、根室市でも独自の補助・支援制度を実施することを求める内容です。

今回の署名の取り組みでは、根室市社会保険推進協議会に加盟する労働組合など各団体だけでなく、根室市老人クラブ連合会などの市内の団体や、また社会福祉協議会をはじめ市内の介護事業所なども署名活動に協力いただきました。

要請の参加者から「漁船等に長年乗っていて難聴になる方も多い。白内障手術のように保険適用となることが望ましいが、(国)が実現するには」時間がかかる。その間、何らかの支援が必要。これからの世代のためにもお願いしたい」と訴えました。

対応にあたった市民福祉部長は、予算編成前なので詳しい話は言えないとしながらも、これまで介護現場で働く方々からも意見を聞きながら検討してきた。補聴器だけでなく、その他にも日常生活上で必要となる器具もあるので、合わせて支援する仕組みを検討している。市民の困りごとに寄り添うことが一番大切な事。いまの制度で該当しない状態の方は多い。そうした隙間を我々としても埋めていきたい」と市の検討状況について説明されました。

ぜひ、こうした取り組みが前進し、難聴を抱える方の健康と生活の質の向上に寄与されることを期待します。

あらためて、高齢化について考えてみました

根室市の資料によると、2021年中(1月～12月)に、根室市内で亡くなった方は416名にのぼるそうです。正確に調べていませんが、戦時中は別にして、過去一番多い年だったかもしれません。その一方で、市内で産まれたお子さんは115名であり、年々減少しています。

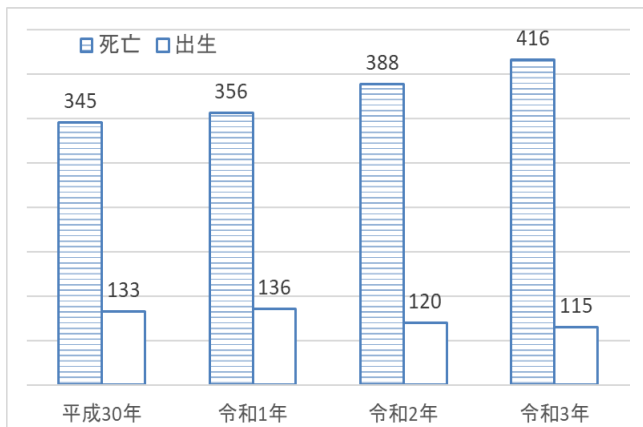
高齢化と言いつつも根室市の65歳以上の人口は、2019年度をピークに減少に転じています。市外への転出もありますが、亡くなる方が増えていることが大きな要因です。

一方で75歳以上の人口は2024年度まで増加し、また介護保険を利用するための要介護等認定者数も現在より200人ほど増える見込みです。2024年度が、75歳以上の人口数と要介護認定者数のピークになると予測されています。

この先2040年度の高齢化率は41.3%まで上昇する予測です。

人口減少の加速化で、労働人口の急激な縮小が大きな課題となっています。

高齢化・重症化で医療介護福祉の人材不足が深刻ですが、そればかりでなく、全ての分野・業種における担い手の確保にむけた取り組みが重要となっています。



根室市内の死亡数と出生数の推移(各年1月～12月)
根室市市民環境課の資料より作成

1月9日、根室市成人式が開催され、今年度の新成人257名が新たな門出の日を迎えられました。

コロナ禍に対し、市外から訪れる方には出発前と根室到着後も抗原検査を受けてもらう等、主催者側も大変に神経を使いながら取り組まれたことと思います。当日は一般参加の来場を制限し、式典の様子は市教委のYouTubeチャンネルでライブ配信されました。

新成人代表の方は「誓いの言葉」として「若者の情報発信力を活かして、海産物をはじめとした根室市の魅力を広く発信し、水産業の振興や若者が住みやすく住み続けたいと思える街づくりに貢献していきたい」と力強く延べられました。

新成人のみなさん おめでとうございます



根室市教育委員会YouTubeチャンネルより
根室市成人式ライブ配信の画面キャプチャ